

もとの話を読んで、その話からできた故事成語を上からえらび、記号で書きましょう。

ア 矛盾

ウ 蛇足

オ 推敲

キ 温故知新

ケ 人間万事塞翁が馬

イ 五十歩百歩

エ 漁夫の利

カ 背水の陣

ク 杞憂

コ 朝三暮四

- ① 「どんな たても つきとおす ほこ」と「どんな ほこも ふせぐ たて」をいっしょに
 売ろうとした 商人の話。
- ② 戦いで 五十歩 にげた 兵が、百歩 にげた 兵を わらった 話。
- ③ しぎと はまぐりが はなさずに 争っていると、通りかかった りょうしが 両方 とった
 話。
- ④ さるに「朝 三つ・夕方 四つ」と言うとおこり、「朝 四つ・夕方 三つ」と言う
 よろこんだ 話。
- ⑤ わざと 川を うしろに して 陣を しき、兵が にげられないように して 戦った 話。
- ⑥ 杞の 国の 人が「天が 落ちてこないか」と心配して、ねむれなくなった 話。
- ⑦ 孔子の ことば「故きを 温ねて 新しきを知る」から。
- ⑧ にげた 馬が よい 馬をつれて 帰り、その 馬で 息子が けがをし、そのおかげで
 戦いに行かずに すんだ 老人の話。
- ⑨ へびの 絵を 早く かいた 人が、足まで かきたして 負けた 話。
- ⑩ 詩の 一字を「推す」にするか「敲く」にするか、ずっと 考えつづけた 詩人の 話。

